

# 人 十年、地下道をそうじしました

大野小二の町  
子供会の五人

国道八号線で分断された大野商店街をつなぐ地下道を皆さんご存知でしょうか。そう、ゲタ六前の地下道です。行ってみるとわかるのですが、とてもきれいです。空き缶やゴミが落ちていません。だれがそうじしているのでしょうか。

子供たちです。毎月第一日曜日の朝九時ころ行くと砂けむりが巻つていきます。五人の小学生がほうきをもってはいっています。だれかな。自己紹介してもらいましょう。

「竹内正和です。大野小学校六年二組です。」

「広川里美です。六年四組です。」

「三本和広です。六年三組です。」

「弟の三本武史です。三年三組です。」

「一年生の佐藤大地です。」

五人は大野小学校二の町子供会に入っています。竹内君、広川さん、三本君は三年生のときからそうじを続けています。「上級生がしていたので僕たちもしくたくは」と竹内君。この奉仕活動はもう十年以上続いているのです。始まりを竹内陽子さんに聞いて



上/二の町子供会の五人、右から三本武史君、竹内正和君、三本和広君、佐藤大地君、広川里美さん  
下/8号線の地下道を毎月一回清掃しています

みました。「地下道が出来て何年かしてだと思えます。子供会で夏休みに何か奉仕活動したら、と子供たちに言ってみたくです。そしたら、頑張りましたね。ポスターな親切運動本部から贈られました。

までかいたり、まさか、こんな長く続くとはい。そして、六月に新潟西警察署で「小さな親切実行章」を受けたのです。これは、東京の小さな親切運動本部から贈られました。

五人はこう言っています。竹内君「ゴミはあまり捨てないでほしいと思います。やだなと思うときもあるけど、みんなで続けてきたからこれからもがんばります。」

広川さん「女子はわたしだけです。でも、別に大変じゃありません。」

三本君「新聞に出たので驚いた。家では自分の部屋のそうじをするぐらいかな。弟の武史君「お兄ちゃんたちのようにやりたいと思ってる」。まだ一年生の大地君は夏休みから始めるそうです。

万羽昭四校長先生は「学校では詳しく知りませんでした。こんな子供たちがいて誇りに思います。子供たちが地域社会の一員として、自分でできるものをするのはとても大切なことです。全校の励みにしたい」と話しています。

お願いが一つ。地下道にゴミを捨てないようにしましょう。

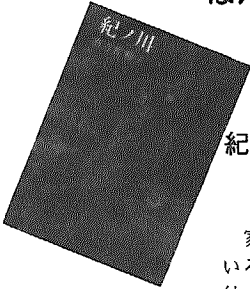
## ほんの一冊

紀の川

有吉佐和子

家にはそれぞれいろいろな家の紋がありますが、女はなぜか「かげ蔦」「糸蔦」と決められている理由がわからず、そのようなものかと今まで過ごしてきました。

図書館から借りた一冊の本、有吉佐和子著の「紀の川」がその疑問を永解してくれました。明治、大正、昭和と三代の大家の奥様が、お家大事に男のような侠気で自分を厳しくいまして、蔦のようにからみついていきます。女は嫁に行つた先からみついて離れることがないよう蔦が紋に使われているのです。出会えてよかった一冊です。(後藤サチ・金巻)



人の動き		前年比	
6月末日現在	(前月比)	[前年同月比]	[前年同月比]
人口	22,204 (+24)	[+342]	[+158]
男	10,898 (+19)	[+184]	[+184]
女	11,306 (+5)	[+70]	[+70]
世帯	5,788 (+16)	[+]	[+]
6月1日~末日	転入	51	
出生	転出	36	
16			
9			
死亡			



## ●今月号の表紙

前略 霊長類ヒト科殿  
最近、とても困っております。だつて川は汚れる、野原は減る、おかしな薬はまかれる、なんだか息苦しい毎日の。ヒト様にとっては、「虫ケラ」とか「犬畜生」とか「雑草」でしようが、ヒト科をわたしたちは「ヒトデナシ」と呼んでおります。ヒトデナシは種として多すぎやしません。たつた一つの地球上に四億もの個体。維持するために、海から地中から資源をむさぼり食う。すべて、かつての地球上の生物たちがこしらえたものなのです。それも、最近、少し安心してあります。チェルノブイリとかというところの事故。ヒトデナシの時代はもうすぐ終りまいみたいですね。早くヒトデナシ時代が地球に到来しないかと毎日、太陽さんに祈っております。次に地球を継ぐのは私たちですよ。かしこ

七月は研修やら出張やらでのべ一週間ほど役場を留守にした。だから、今号は特集なしの十二ページになったと言いつつ、話すのは「町づくり、村起こし」である。プームと言ってもよい。黒埼町でも何かができるはずである。例えは前号の花いっばい運動はその一つである。実は私も参加して、初めて記事を自分で創ってみたのだ。さて、広報の研修で田舎プームの仕掛人で作家の高橋義夫さんをお招きした。高橋さんが言うには「町づくりから町こわしの時代だ」そうである。人間が撤退しなくなりそうな町が全国にたくさんあるという。そういうところは自然の天国だそう。それもまたすてきである。霊長類ヒト科が増えてきている黒埼町は「文化」の向上しかない、目的は。さて、方法は、ドースル。

## ●来月号の表紙

花いっばい運動と今年の特集を組みたいと思います。庭先の草々や七十年、八十年生きたあなたの人生をお聞かせ下さい。

